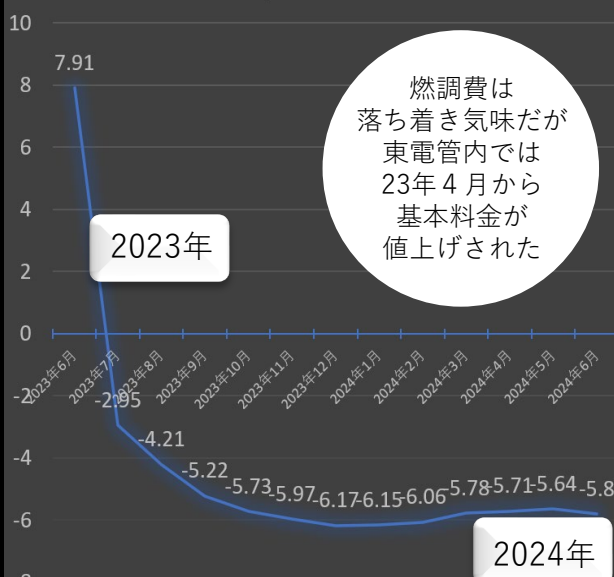


東京電力_燃料調整費用 (円/kWhあたり)



燃調費は
落ち着き気味だが
東電管内では
23年4月から
基本料金が
値上げされた

電気高騰 長引く家計圧迫

電力大手各社の値上げ申請状況

地域	23年3月の標準料金	値上げの申請状況と値上げ幅
北海道	8862円	申請済み (29.9%)
東北	8565円	申請済み (31.7%)
関東	9126円	申請済み (28.6%)
北陸	6402円	申請済み (42.7%)
中部	9189円	検討せず
関西	7497円	検討せず
中国	8025円	申請済み (29.9%)
四国	7915円	申請済み (27.9%)
九州	7276円	検討せず
沖縄	8847円	申請済み (39.3%)

標準6月791円

6月適用、大手

北海道電、34%

東京電力管内:標準家庭モデル
9,126円/月

補助金終了

▼ANNニュースより抜粋

困惑 電気代6月から400円アップ
1年で1500円値上がり悲鳴
5人家族「太陽光」でやり繰り

自家発電した電気を優先的に使用
→足りない分を電力会社から購入

太陽光と蓄電池をフル活用して

5,405円

このぐらいに抑えられてはいる

困惑 電気代6月から400円アップ
1年で1500円値上がり悲鳴
5人家族「太陽光」でやり繰り

困惑 電気代6月から400円アップ
1年で1500円値上がり悲鳴
5人家族「太陽光」でやり繰り

もし太陽光と蓄電池がなかった場合

太陽光と蓄電池なかったら
1万8000円は結構痛い

●電力大手の規制料金の値上げ動向(家庭向け)

値上げを申請済み	申請検討	未定
東北(32.94%)、北陸(45.84%)、中国(31.33%)、四国(28.08%)、沖縄(40.93%)	東京(3割前後)、北海道	関西、中部、九州

東電値上げ申請へ 3割前後、来週にも 実施夏以降

東京電力ホールディングス(HD)は来週初めにも国の認可が必要となる家向け「規制料金」の値上げを経済産業省に申請する方針を固めた。値上げ幅は均3割前後となる見通しで、今夏以降の実施を目指す。規制料金の値上げが施されれば、東日本大震災後の2012年9月以来11年ぶりとなる。

家庭向けの電気料金に「か、北海道電力も近く申請する方針を発表している。」

大手電力会社が申請した値上げ幅

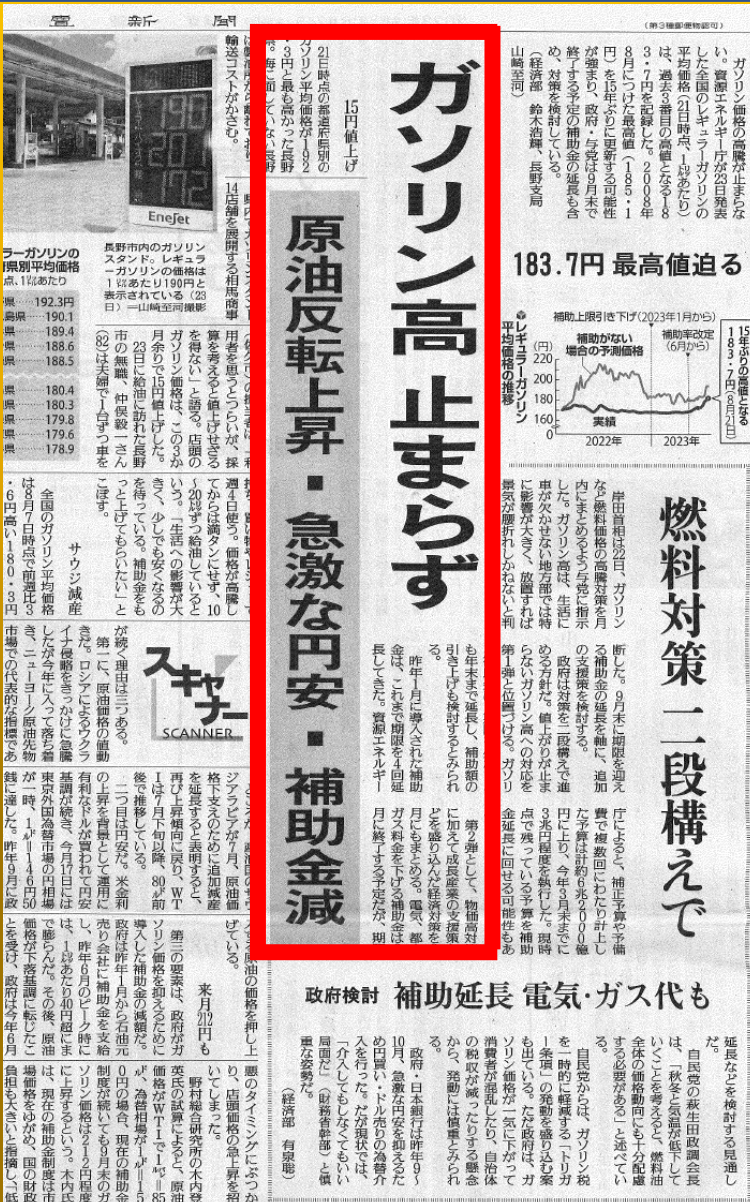
電力会社	値上げ幅
北陸電力	4月から 42.7% ↑
北海道電力	6月から 32.2% ↑
中国電力	4月から 29.9% ↑
東北電力	4月から 31.7% ↑
四国電力	4月から 27.9% ↑
東京電力	6月から 28.6% ↑
沖縄電力	4月から 39.3% ↑

今でしょ!

6月以降は電気代高騰の波がやってくる...この既定路線から逃れるには、

太陽光発電と蓄電しかない

首都の電力事情 電気代上昇は資源輸入国 日本の宿命



電気料金上昇の構造的要因

- 国内全域での原発停止による、発電コストの上昇
- 天然ガス（LNG）と石炭の価格高騰

2010年と2024年では月間の電気代がこれだけ違う！

※計算はすべてSIソーラー調べによります。正確性を保証するものではありません。

2010年月間電気代

※年間平均電気代単価

▶ 400kWh × @20.4円 = 8,160円

年間電気代支出118,200円、年間電気使用量5,566kWh 総務省家計調査をもとに算出

2024年月間電気代

※5月電気代単価

▶ 400kWh × @37.5円 = 15,000円

①3.69円②35.96円+③3.49円+④-5.64円
 (①基本料金分、②電灯単価、③再エネ賦課金、④燃料調達費)
 ※電灯単価は東電EPスマートライフLを採用
 ※燃料調達費は、2024年春まで政府補助有の見通し

直近推移

2月	400kWh × @35.68円 = 13,472円
3月	400kWh × @35.88円 = 13,952円
4月	400kWh × @34.9円 = 13,960円

月間6,840円
負担増

この14年間で電気代は

年間82,080円上昇！



▲NHK ニュース7より抜粋